美術の窓(28)

遡って古代ギリシアの壺絵の展観を企てて

大和文華館館長　吉川逸治

人間像の表現における「正面性」の法則について(ユリウス・ランゲより)
左)エジプト　右)アッシリア

春は大谷探険隊の遺宝を中心に、シルクロードの各地の壁画を東京国立博物館や所蔵家の方々の御厚意によって催しました。この秋は、遡って古典古代文化の一端にまで接触して見たいと存じます。それには古代ギリシアの壺絵が戦前早くから橋本関雪画伯の御蒐集があって、いくたびか銀閣寺に近い名苑にかこまれた画室をお尋ねして、名品を拝見させていただいた感激を思い出鮮かに、このコレクションを中心にその後、東西の所蔵家が珍蔵されている名作を展示していただく様に懇願いたし、展示についての指導を顧問の御役目を古代のギリシア美術研究の大先輩であられる村田数之亮先生にお頼み申しました。細々した作品の記載などはウィーン大学から古代ギリシア壺絵の研究でドクトルの学位をとられた古代ギリシア美術研究家水田徹教授に依頼致し、本館学芸部次長吉田宏志君が専門の東洋陶磁とはあまりにも異なったギリシア古陶器の展示のため、新進の勉強家となって、新領野開拓と文字通り東奔西走して蒐集家を尋ね、珍らしい本邦所在の名品をたずね、所蔵家皆様の御厚意によって、始めて、総合的展覧会をひらく見通しが出来ました。

シルクロードは、その意義は古典古代の文化が、アレクサンドル大王のアジア遠征によって、中央アジアにバクトリア植民地を残し、自らは帰路、ハイバルパスの峠を越し、インダス河中流地方まで進出して、退去し、紀元前323年バビロンに歿するが、その広大な征服地はエジプト、シリア、ペルシアから、西北インドの一部まで、彼の後継者らによって、ヘレニズム諸王国が建てられ、東西文化交流の源が築かれたわけです。シルクロードはアレクサンドル大王の東方遠征の使命であった古代古典文化による東西文化交流の発端が開かれたのでした。

アレクサンドルの育った紀元前四世紀の後半、四分の三世紀は、まさに古代ギリシア文化の第一完成期であって、若きアレクサンドルの師が、大哲学者アリストテレスであり、彼は自分の画家として古代随一の名画家アペレスをもち、彫刻家としては全生涯の名作数千とされる大青銅造像家リュシッポスを抱え、自らヘラクレスを行動の理想としてリュシッポスの造った「卓上のヘラクレス像」を常に座右においた。学識についても征服地で珍らしき動物を発見すれば、師に送りとどけ、ペルシア帝王の宝玉函は彼の愛読書の箱と化す。古いオリエントの邪神・悪鬼・怪獣の類は古典論理の鋭鋒で一挙に亡ぼす。

彼の遠征がオリエントから東洋の端まで及ぼす影響は、なんといっても古典美術の伝播であり、それは彼の人類的使命だった。一言にして、古典美術の特色と称すれば、人間形態中心主義（アンスロポモルフィズム）に基礎をおいた写実主義を理想化したところにありますが、もっと基本的には、人間像の表現に関して、人類が原始から守り続けてきた「正面性の法則」を打破して、自由な、自然な姿で人間像を表現することを可能ならしめたことです。

古代エジプトは帝王から農民の像にいたるまで、写実は驚くべき程発達するが、その姿勢、運動態は「正面性」の諸規則に束縛されて、最後まで解放されない。スメルの古代人の美術品も鮮やかな印象を伝えつつ、正面性の規則に例外なく、服従する。モザイコや銀製品のデザインも然り。エジプトの絵画同様に横顔に正面向の上体部をつけ、腰から下は横向きである。

古代ギリシアの美術は、紀元前六世紀から、この正面性の法則を少しずつ破り、紀元前五世紀には絵画も彫刻も、この束縛から脱し、自由に生存する人体像を表現し、顔も喜怒哀楽の情を明示するに至る。この「正面性の法則」からの解放は、絵画の方が彫刻より早かった。そして細かくその変化が観察できる。

その点、古代ギリシア壺の作家は、画家であり、壺全体の作家であり、紀元前六世紀後半から五世紀の全盛期には傑出した芸術家が輩出し、誇らかに署名して、大形の陶画、壁画の作者らと肩をならべる。しかし、その後、壺画はなんといっても、デッサン主体であるが、絵画が彩色の変化、調和、濃淡の微妙さを要求し、また遠近法の種々、描線、彩色の多様さを示すに及び、彼等は近世西洋画の技法を予見するところまでゆくので、紀元前四世紀からは、本格的絵画の古典様式が成立し、ここで壺絵は工芸的制作のうちに、古典様式を慎ましやかに伝達することになる。

さて、アレキサンドル後継者時代に続いて、ローマ、ペルシア、インド、隋唐の諸大帝国を結ぶシルクロード時代となると、ギリシアの創造した古典古代の文化は、これら諸地に伝達され、習得され、それぞれの古典文化時代を産みます。

古代ギリシアは古典文化を王制や僭主制からの解放、自由な農牧、商工の生活を求める段階で創造したのに対し、この第二古典時代は、諸宮廷中心の古典美術で、豪華典麗を旨とし、したがってこのシルクロードの交易品は、当初以来の穀類、塩や油から日用品、原料もあったが、著しいのは高価な金銀、宝玉やそれらで制作された贅沢品になります。貧しい本国に棲んだ人々が、植民地に食を求めて交易しながら、学び、働いて創作した古典文化は、その後、宮廷から富民へ、民衆へと広まって、東西世界の人々の生活に余裕と進歩を授けてきました。その度ごとにいく度か「ルネサンス(古典復興)」と過ぎ去った後から、名付けられるのです。

季刊 美のたより No.84
昭和 63 年 8 月 25 日
発行　大和文華館

Copyright ©2007 The Museum Yamatobunkakan. All Rights Reserved.